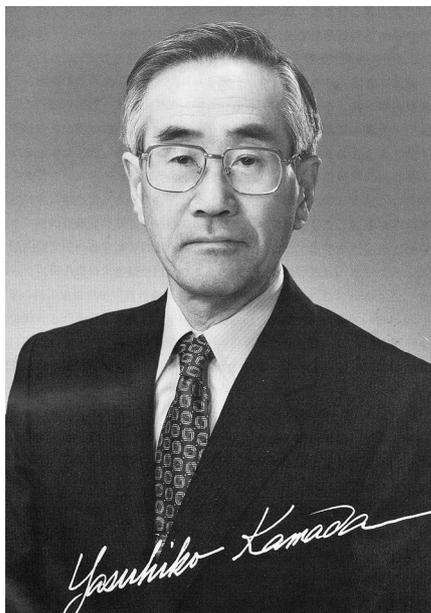


鎌田泰彦先生のご逝去を悼む

小笠原憲四郎



平成21年1月10日(土)午前1時過ぎに長崎大学名誉教授鎌田泰彦先生が逝去された(享年84歳)。鎌田先生は大正14年(1925年)12月19日に北海道小樽市でお生まれになり、昭和18年に小樽中学校を卒業の後、仙台工業専門学校を卒業を経て、昭和21年4月に東北大学理学部地質学古生物学教室に入学し、昭和24年に卒業されている。鎌田先生は福島県相馬の名医の次男で、大学の卒業論文は半沢正四郎教授のもとで、相馬に近い常磐炭田地域の新生代層序と貝化石に取り組みられている。その卒業研究が大変優れたものであったため、矢部先生や半沢先生、庄司力偉先生、畑井小虎先生などから高い評価を受け、東北大学の第1期特別研究生を経て大学院研究奨励研究生として大学院で常磐炭田地域の研究を継続しておられる。鎌田先生の東北大学地質学古生物学教室での同期卒業生では小高民夫(東北大学)と松尾秀邦(金沢大学・愛媛大学)先生がおられ、1つ上に金谷太郎氏(東北大学・日光金谷ホテル)や須鎗和巳氏(徳島大学)、さらに1つ下に高柳洋吉氏(東北大学)、(故)鈴木敬治氏(福島大学)などがおられる。鎌田先生は大学院途中の昭和28年(1953年)に長崎大学講師(学芸学部)に就任され、昭和34年同助教授、昭和45年から教授をつとめられ、その間昭和55年から4年間付属中学校の校長を務められ、平成3年(1991年)春、長崎大学教育学部地学教室を定年退官されている。先生は昭和35年9月に(故)畑井小虎先生の下、東北大学より理学博士の学位を取得されている。先生が38年間過ごされた長崎大学では、多くの卒業生を世に送り出しつつ、16編の著書、長崎県下の地質図幅や表層地質図の刊行や貝類古生物学、沿岸域の堆積学などに関する70編以

上の論文を公表されている。鎌田先生は貝類古生物学と堆積学を交えた堆積・古生物学分野の開拓者の一人である。

鎌田先生著書の「付属中学校長4年間の軌跡：岩屋の夕映え、1986」は、中学校長としての勤めをどのように果たされたか、在任中の校長挨拶の原稿を出版されたもので、多くの方々から好評であったと伺っている。これは鎌田先生の誠実で実直一途であった研究者の日常の裏面を覗かせる鎌田流教育実践の記念誌といえよう。ご退官に際しては鎌田泰彦教授論文選集と鎌田泰彦教授退官記念文集(1991)が刊行されている。

鎌田先生は地質学古生物学、特に長崎県下の地学全般について探求を極めた「生き字引」で、長崎県の各種審議会委員を務める一方、自らが立ち上げた長崎県地学会を主催するとともに退官後も名誉会長を続けられていた。先生は日本地質学会、日本海洋学会などをはじめ日本第四紀学会や日本貝類学会など、15の学会に参加されてきた長崎県の名士、地域の名士に本当に相応しい方であった。鎌田先生は、平成18年4月29日、春の叙勲により「瑞宝中綬章」を授賞されている。

先生は多くの研究者と交流があった方で、退官記念文集には23名の研究者と18名の長崎大学と長崎地学会関係者、さらに18人の卒業生が寄稿されている。先生は文部省在外研究員として1970年3月から1年間アメリカ東部のウッズホール海洋研究所で大西洋陸棚の貝類と堆積学の研究に従事され、この際のほのぼのとした話は元地質調査所の盛谷智之氏が記している(文集22～25頁)。先生は本当に面倒見が良く、気配りが行き届く方で、多くの方々から慕われ尊敬を集めた方であった。

私は仙台の小高民夫教授の下で長く助手を務めた関係で、鎌田先生を含む昭和24年卒の13人会の面々を存じ上げているが、常日頃から、これらの方々には戦前戦中の混乱期を乗り越え、今日の日本の姿に導いた記念碑的存在であると思っている。ここにあらためて鎌田先生との過去を振り返りながら、長崎や秋田、仙台そして東京や富山などの学会での思い出を確認している次第である。

日本古生物学会関係では鎌田先生は1948年入会の長老であり、特に古生物学会の特別号No.8として出版された「Tertiary marine Mollusca from the Joban Coal-field, Japan.(英文187pp, pls.1-21, 1962)」は、今でも日本第三系貝類化石の研究には欠かすことの出来ない文献である。

野田浩司先生(記念文集32頁)が述べておられるが、鎌田先生が命名された学名は新亜属 *Hataiyoldia* (二枚貝)と *Shoshiroia* (巻貝ピカリヤの仲間)の2つで、新種は亜種名を含め30種に上っている。このなかで、*Modiolus yasuhiroi*, *Calliostoma miyokoeae*, および *Turcicula atsukoae* の3新種名はご家族に献名されている学名である。さらに有孔虫 *Cibicides kamadai*, カニ化石 *Tymolus kamadai*, そして二枚貝化石 *Cyclina kamadae* の学名は、(故)浅野清・今泉力蔵・荒木慶雄先生から鎌田先生に献名された学名である。

鎌田先生からは、別刷りをお送りするたびに質問やコメ

ントを頂いており、特に柳沢一郎先生が主催されてこられた「平地学の会」の顧問として、常磐炭田地域の第三系に長く関心を払われ続けて来られた。鎌田先生がこの同好会会報（1994, 1996, 2001）に総括と展望を述べられてきた「常磐炭田地域の第三系層序・年代と古環境変遷」は、最近あらたな総括がなされ（須藤ほか, 2005）、鎌田先生の業績が再評価されたところである。1999年頃の常磐高速道路のいわき市北方延長建設の際に、先生が何篇か論文を公表されている浅貝層から多くの保存良好な化石が産出し、その採集品の大半は会津の福島県立博物館に保管され

ている。

戦後の混乱期から近年まで、鎌田先生が開拓・発展させてこられた第三系層序と貝類化石研究は、その後の研究者にとって最良の指導書であり続けるとともに、その探求精神は後輩によって脈々と受け継がれ、新たな成果を生み出す支えとなっている。

最後にあらためて鎌田泰彦先生のご冥福をお祈りする（合掌）。

（お写真は退官記念誌より拝借した）

